



職員募集

ご応募お待ちしております！
お問合せは下記へお電話ください。

調理、売店、外販スタッフ（6時間パート）

【資格】経験不問、要普免、厨房等での調理経験者歓迎
【勤務】8:00～15:00(休憩1時間)、月～金、第2・4土曜日(週5日)
【勤務地】ワークハウスみやま(高崎市金古町)
高崎市中川長寿センター(高崎市井野町)
【時給】880円～(3カ月の試用期間中は850円)
【待遇】通勤手当あり、賞与あり、有給休暇あり、雇用保険各種あり

グループホーム世話人（パート）

【資格】経験不問、要普免
【勤務】朝7:00～10:00、夕15:00～19:00(勤務時間用相談)
ローテーションにより月15日程度、土日、祝日勤務有り
【勤務地】吉岡町5カ所、高崎市菅谷町1カ所
【時給】930円～(3カ月の試用期間中は880円)
【待遇】通勤手当あり、賞与あり、有給休暇あり、雇用保険各種あり

送迎ドライバー（パート）

【資格】大型自動車運転免許、マイクロ送迎の経験者歓迎
【勤務】朝7:00～9:00 昼12:00～14:00 夕16:00～18:00
月曜から日曜日 ローテーション勤務による
【勤務地】みやま工房(吉岡町南下)
【時給】880円～(3カ月の試用期間中は850円)
【待遇】通勤手当あり、賞与あり、有給休暇あり、雇用保険各種あり

レクリエーションのご案内

【絵画教室】

1月は、絵画教室はお休みです。2月に予定していますのでお楽しみに！

法人からのご案内

新年度(令和2年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

発行 特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 繁男

住所：群馬県北群馬郡吉岡町大字南下983-2(みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
多機能型事業所(就労継続支援A型・B型)「キッチンハウスみやま」
多機能型事業所(生活訓練・就労移行支援)「ワークハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・4号・5号・6号
(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2020年
新年号

新年明けましておめでとうございます

輝かしき令和2年の年頭にあたり謹んで新春の御挨拶を申し上げますと共に、皆様には良き新年を御迎えのことで御慶び申し上げます。旧年中は私達NPO法人山脈、並びに当法人が運営する障がい者福祉事業に対し、皆様方の温かい御理解と御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

昨年は年号が平成から令和に変わり正に激動の1年でした。国は「経済財政運営と改革の基本方針2019」のもと「全世代型社会保障改革」を進めようとしており、社会保障や福祉をめぐる環境も一段と厳しくなりました。年金問題では、社会保障の担い手を増すということで、70歳までの就業確保と短時間労働者や零細企業者の年金加入義務化、その一方で年金受給開始年齢の引上げや年金カット、障がい者の障害者年金等級の引下げが多発しています。介護保険問題では2015年より要支援1・2は介護保険から外され、要介護3以上でなければ特別養護老人ホームに入所できないなど改革が進み、今後、利用料の原則2割やケアプランの有料化等「保険あって介護なし」の事態も危惧されます。更には、医療においても75歳以上の高齢者であっても自己負担1割が一律2割への動きも出ています。

障がい者福祉分野においては昨年5月の報酬改定により、事業運営も深刻になり、利用者への良質なサービスの提供も難しく、事業を休・廃止を余儀なくされた事業所も数多くあると聞いています。

また、障がい者にとって「いのちのとりで」のひとつでもある生活保護費を引下げ、160億円も削減させたとも聞いています。

こうした国民にとって、人権の根幹である医療・福祉・教育への公費削減の一方で、2015年に強行した「安保法制」のもと、戦争ができる国づくりが押し進められ、1機116億円もするステルス戦闘機F35を147機もアメリカから「爆買い」と言われています。更に東日本大震災による福島原発の大震災の救援・復興も解決されない中、次々と原発再稼働が決定されるなど危ない状態が強められています。私達は先の大戦の中で障がい者が迫害・抹殺された教訓からも強く平和を願います。

また、消費税が10%に増税され障がい者や低所得者の生活が苦しくなる一方で、総理主催による「桜を見る会」の問題では税金が投入された同会に多くの総理等の後援会員、或いは反社会的人物とされる人を招待していたことを聞くと、決して許し難いことであり怒りさえ禁じ得ません。

しかし、暗いニュースばかりではありません。先の参議院選挙で憲法改正発議に必要な3分の2の議席を改憲勢力に確保させなかったことで平和憲法が守られました。そして、同選挙にて2名の重度障がい者の方が国会に初進出したことにより、障がい者福祉の改革・前進が進むものと希望を持つこともできました。

当法人としても、昨年8月、新たに就労移行支援事業、就労継続支援A型とふたつの福祉サービスを開始し事業を拡大発展することができました。また、昨年度、当法人の創立15周年を迎えました。来る2月には15周年記念式典並びに事業を開催し地域交流を図りたいと思います。

本年も、「障害者権利条約」、「障害者差別解消法」、そして昨年4月に制定された「群馬県障害者差別解消条例」を追い風に「障がい者の皆様が安心して働き暮せる社会のために少しでもお役に立ちたい」との法人設立の原点に立ち返り、一層の努力を致す所存でございます。本年も皆様方の変らぬ御力添えを御願い申し上げます。新年の御挨拶と致します。(賀状にかえて)

令和2年元旦
特定非営利活動法人山脈
理事長 笹澤繁男
役職員一同

きょうされん 40 周年映画「星に語りて～Starry Sky～」高崎上映会に参加！

11月15日（金）、高崎市総合福祉センターのたまごホールで開催されたきょうされん40周年映画「星に語りて～Starry Sky～」高崎上映会に多くの山脈の職員が参加しました。

当日は、上映後に松本勲監督のトークショーもあり、会場は大盛況でした。

映画の内容も東日本大震災の発生直後より、障がい者の方々、支援に入られた方々、そして、行政の方々の苦悩が描かれたヒューマンドラマで、報道では伝わってこなかった当時の状況を知ることができました。そして、上映会に多くの福祉関係者の方々が集まりましたが、近年も台風等の自然災害が発生するなかで、その備えとしてこの映画を多くの一般の方に観て欲しいと感じました。参加した山脈の職員にも様々な想いが心に沸いたようです。

やまなみニュースでは、新年号と2月号で山脈の職員の感想をご紹介します。

【みやま工房】

- 日本大震災を舞台とした作品でしたが実話をもとに内容となっているので障害や福祉に携わっていない人でも観賞できるものとなっていたと思いました。「障害者が消えた！」というインパクトのあるフレーズから始まり、何が起こっていたのかと興味を惹きつけられました。そして、その解明のために支援者が尽力していた事、行政の機能がストップしていた中での大変な苦労を知る事が出来ました。避難場所では大勢の被災者がおり、日本での障害に対する理解の低さと絶望的な状況、疲労からくる感情も重なり、障害者には居づらい環境であったことがわかり、今後もまたいつか起こるかわからない災害の為に今回の経験を活かした仕組みが必要だと感じました。(Y.W)
- 冒頭の津波のシーンで震災依頼、連絡がつかない学生時代の仲間たちのことを思い出してしまいました。「自分にもっとあの時、出来る事はなかったのか」と感情的になってしまいました。この気持ちを今の仕事に役立てられるようにしていきたいと思いました。(I.K)
- 3月11日の震災があった時、私はまだ高校2年生でした。東北の人々が大変だったという事はわかっていましたがこの映画をみて当時、報道されていなかった現実ではお歳を召した方や障害のある方が邪険にされていたとは思ってもいませんでした。支援者の方々の多くの苦労が伝わる感動した作品でした。(M.S)
- 改めて津波の被害のすごさを感じました。高齢者や障害の方々が逃げ遅れていたり、避難所での待遇、色んな問題があったなんて知りませんでした。ニュースを見ているだけではわからない事をたくさん知れた映画でした。実際の障害者の方々が出演をされていたり、とてもリアルで感動的でした。星に語りての映画を見られて良かったです。(M.S)
- 星に語りての映画を見て障害者に対する考え方を社会的にも自分自身でももっと変えていかなければならないと思いました。(K.S)
- 災害など時、自分が避難をしたり、自分の事だけで精一杯になってしまう時など、障害者などを含む年配の方や小さな子供が他の人が感じる精神的苦痛をさらに受けてしまう事、そして、避難所での実態など普段あまり考えていない事をテーマにしていたのでとても心に刺さる映画でした。(S.O)
- 今回の映画をみて、震災から復興に向かっていて福島県でのきょうされん全国大会の分科会で施設の職員の方がお話をしていた事を思い出しました。利用者、職員関係なく被災者として施設での日常を取り戻そうとしていく大変さを考えると自分も同じ被災者となった時に支援者としての行動をとれるかという不安と日頃から震災に対して準備が必要なのだと感じました。全国的に震災以外の災害が多く発生しているなかで何が出来る事があればお互いに助け合う必要があるのだと感じました。(T.C)
- 宮城県牡鹿半島沖で発生したマグニチュード9.0の地震を映画にしたもので障害者の方々が消え、消えた障害者たちは半分崩壊した家などで身をひそめ生きていた現実。私だったらあの時何が出来ていたのだろうと自問自答させられました。(K.S)



- 1人、1人に適したサービスや情報提供がされない事で孤立してしまったり、生死が大きく別れてしまったりする事の怖さを知りました。すべてが上手くまわる様になるには長い期間要するとは思いますが、不利益や不憫に対応して一つずつ改善できれば少しでも過ごしやすい生活が送れるのではないかと思います。周りに気を配る、普段から周囲の生活を意識するなどしていきたいと思いました。(A.H)

【キッチンハウスみやま】

- 仲間や仕事を失った喪失感、苛立ち、無気力から大好きな絵を描くことをやめてしまったり、コーヒーを入れることをやめてしまったり、現実を受け入れられない状況から時間はかかったが、事実を受け止め普段の生活を取り戻していく姿に人間としての強さを感じた。トンネルを抜けた先の言葉にできないような凄まじい光景。さまざまな困難があったが多くの人の協力や努力、諦めないことで道が拓かれ、震災で失ってしまったものが少しずつ前向きに動き出し、未来に見るトンネルの先の風景は、障害の有無関係なく皆で協力し築き上げたそこに暮らす人達にとって住みやすい街が広がっているのではないのでしょうか。(K.I)
 - 避難所で最初は浮いてしまっていた障害のある人と、そうではない人たちが、人助けという共通の目的によりお互いを理解しあえた場面が、映画の中だけではなく現実でも起こる世の中であるとよい。障害があることで本人だけでなく家族も周囲に対して負い目を感じてしまい、閉じこもってしまっていた。災害時のような特別な時でなくても、気を使うなど遠慮している現実があるように思う。支援者として現状を変えたいと決意を新たにさせられた。(Y.O)
 - 監督のお話にあったように障害を持った方との接点が少ないと、自分もそうでしたが障害に関わる様々なことに対して「無関心」なのは仕方のないことなのかなと日々感じています。この映画をそのような一般の方たちが見ることで少しでも「関心」を持ってくれる人が増えたらいいなと思います。(K.H)
 - 支援物資を車で運べないお宅へ、前田さん（発達障害で、ずっと走っている人）が「助けて」「届けなきゃ」という思いで行動を起こした場面で、障害故の純粹さに感動した。最初は泥棒したと勘違いしていた周りの人も、理由を理解し、発達障害の特性が「役割」「居場所」として周りに認められた、必要とされた場面は支援者として見ていてうれしかった。(Y.I)
- ### 【ワークハウスみやま】
- 今回の映画は、東日本大震災での障がい者の苦悩や行政の対応、被災された方々の目線で描かれており、震災の日にこんなことが被災地ではおこっていたのだと分かりやすく感じられたのがとても良かったです。当時、テレビ等の報道では津波や原発の情報ばかりで、私もそのことばかり気にかけていました。しかし、障がい者の方々が避難所で生活するには、周りの人々の理解、身体の方々はベッド、トイレ、医療器具等の問題で自宅でない生活が出来ない環境であったことに衝撃を受けました。そして、障がい者の方々の為に全国で活動している方々のことも初めて知ることができました。実在する障がい者の方々が演技している姿も素晴らしく良かったと思いました。中川長寿センターでも体の不自由な方々もたくさん来られます。メンバーさんやお客様、色々な方々と生活していく上で、震災が起きた時にどう動けば良いのか、とても勉強になりました。(H.S)
 - 障害に関係のない人たちにこそ観てもらいたい映画だと思いました。(T.W)

「星に語りて～Starry Sky～」をあなたの街、あなたの事業所で上映しませんか？

きょうされん群馬県事業者連絡会では、念願であるきょうされん群馬県支部の立上げを来る3月に予定しています。そのためより多くの方々にきょうされんの活動を知って頂きたく、群馬県内においてきょうされん40周年記念映画]であるこの「星に語りて～Starry Sky～」と、一昨年、前橋で上映した「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」の上映運動を展開しています。上映についてのお問い合わせは下記でお受けしています。

きょうされん群馬県事業者連絡会 センター事業所 みやま工房 TEL0279-54-2947